

令和6年度全国学力・学習状況調査及び佐賀県学習状況調査の結果の公表にあたって

武雄市教育委員会

武雄市は平成24年度から学校ごとに公表した学習状況調査の結果をまとめて、市のホームページで公表してきました。

今年度も保護者・地域住民の皆様には学校の現状と取組、武雄市の取組が分かっていただけるように公表を行います。

学校教育は、「知・徳・体のバランスのより高い調和」を目指しており、今回公表した学力調査結果はその一部です。また、日々成長している子どもたちの現時点での一面であり、今後の取組の資料とするものです。この結果を受け、指導方法の新たな検討、校内研修の活性化等に取り組めます。

保護者・市民のみなさまに学習状況・意識調査（家庭や地域での学習や生活状況）の結果をお知らせすることにより、武雄市の教育への関心を高め、市民総ぐるみで教育を考えていただく機会にしたいと思います。

児童、生徒の学力の向上には学校と家庭や地域との連携が必要です。今回、学習状況・意識調査を合わせて公表することで連携体制をより強くしていきたいと考えております。

公表は、小学6年生、中学3年生は全国学力・学習状況調査、その他は佐賀県学力学習状況調査の結果です。

全国学力・学習状況調査は、「知識」に関する問題と「活用」に関する問題を一体的に問う問題の調査となっています。

1 児童の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

H31 入学 現6年生	国語		算数	
	5年時	6年時	5年時	6年時
	県 (4月)	全国 (4月)	県 (4月)	全国 (4月)
	60.7 (0.92)	63.0 (0.95)	50.0 (0.85)	55.0 (0.89)
R6 正答率の全国比		0.93		0.86

◎5年時は佐賀県学習状況調査、6年時は全国学習状況調査の推移。

◎上段は平均正答率、下段()は県平均を1としての比較。

◎「令和6年正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

- 国語・算数ともに県や全国の平均正答率を下回っているものの、前年度からの推移をみると、国語・算数ともに平均正答率が上昇している。
- 国語の平均正答率は、県・全国平均より下回っており、正答率分布は二極化の傾向があった。主語・述語の関係、読書記録の問題において正答率が低く、「言葉の特徴や使い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」について課題が見られた。基礎的な知識・技能について再確認する必要がある。
- 算数の平均正答率は、県・全国平均より下回っており、正答率分布は全体的に分散傾向にあった。体積については公式を活用して求積ができているものの、「数と計算」領域の正答率が非常に低く、題意を読み取り、正確に立式することができていなかった。また、割合のグラフの読み取りなど「データの活用」の領域や複数の資料を関連付けて読み取る力について課題が見られた。
- 基本的な生活習慣が整っており、学校生活に満足している児童が多く、学ぶ土台ができている。
- 「人が困っているときは進んで助けている」「学習・生活場面で友達や周りの人の考えを大切にしながら課題解決に取り組んでいる」と回答している児童は県や全国平均よりかなり上回っており、協働しながら活動していくことの大切さを意識している児童が多いと考えられる。
- 授業態度や調査結果において最後まであきらめずに問題を解こうと努力していることが分かった。

2 改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

- キーワードに書き込みをしたり、図・表などで思考を整理したりして考えを視覚化する。
- 主語・述語の意識化、読書記録の継続化を図り、適切な言葉の使い方・語彙力を向上させる。
- 授業の中で複数の資料を使用した課題を設定し、資料を関連させて読み取る力を身に付けさせる。
- 学び合いの仕方を価値付け、考えを広げたり深めたりする力を身に付けさせる。

(2) (授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

- 週1回の「全校スピーチ」で話す・聞く力の向上を図るとともにメモの取り方の指導を強化する。
- 家庭学習強化週間を年2回(6月、11月)設定し、家庭学習の定着を図るとともに家庭の教育力向上を目指す。自主学習を奨励し、その目的や内容を明確にして自分の力を伸ばす学習に取り組ませる。
- 家庭学習においても、書き込みをしながら問題に取り組むことを指導し、線をつないだり図に表したりして自分の考えを整理する習慣を付けさせる。